

“漢字で教える”ことの効果

“漢字で教える”漢字教育は、漢字を覚えることを直接の目的としていないので、この教育により身についた漢字力は、真の漢字力と言えるものになる。それで、そういう漢字力を養うために、この教育法を幼稚園や保育園に実践してもらうように奨めて来た。

ところが、実践を始めた幼稚園や保育園から、次のような驚きの声を聞いたのである。「この教育を実践してわずか数か月にしかならぬのに、従来の教育では得られなかった大きな教育効果が見えてきた。それは、幼児たちの集中力が著しく強まり、社会性もぐんと伸び、道徳性が向上したことである」というものである。

それで、この教育がなぜ幼児をそのように著しく向上させるのであろうか、その理由をいろいろの面から考察してみた。その結果考えられたことはすでに触れたところであるが、「目と耳とで受容した記憶は、耳だけによる記憶の六倍半も強い」という調査報告のあることである。

幼稚園や保育園では、文字は幼児に読めないものとして、言葉により幼児の耳に訴えるだけである。それに対して、“漢字で教える”教育では、同時に幼児の目にも訴えることになるので、幼児は目と耳とを働かせて学習する。これが第一の理由である。

次に、総じて幼児というものは、目を絶えず動かし遊ばせていて、そのため、心も絶えずそれに伴って遊び動いている。だから、幼児の耳は「聞けども聞えず」という状態にあることが多い。大切なお話や注意が、幼児の心に届きにくい、というのはそのためである。ところが、常に“漢字で”幼児の目に訴える教育をしていると、幼児は、目を学習に参加させる習慣を次第につけていき、目が自然と落ち着くようになる。

だから、先生の大切なお話や注意が、よく心に^{しみ}しみとおり、教育効果が顕れるのである。このような理由で、“漢字で教える”教育を始めると、わずかの期間で、子供たちの集中力が強まり、社会性が伸び、道徳性が向上するのだと思う。